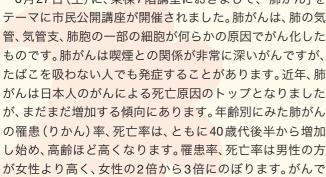
市民公開講座

肺がん~診断から治療・緩和ケアまで~ 市民公開講座を終えて

外科 准教授 長島 誠

6月27日(土)に、東棟7階講堂におきまして、「肺がん」を テーマに市民公開講座が開催されました。肺がんは、肺の気 管、気管支、肺胞の一部の細胞が何らかの原因でがん化した たばこを吸わない人でも発症することがあります。近年、肺 がんは日本人のがんによる死亡原因のトップとなりました の罹患(りかん)率、死亡率は、ともに40歳代後半から増加 が女性より高く、女性の2倍から3倍にのぼります。がんで 亡くなった人数を部位別に多い順に並べると、最新の統計 データでは男女とも肺がんが第1位となっています。











市民公開講座には、多くの市民の方にお集まりいただき ました。総合司会は外科の長島が担当し、内科の松澤から 「肺がんの基礎知識」、外科の森山から「肺がんの外科手術に ついて」、放射線科の磯部から「肺がんの放射線治療につい て」、内科の岡田から「肺がんの化学療法について」、がん性 疼痛認定看護師の塚本から「肺がんの緩和ケアについて」の 講演が行われました。

肺がんは、手術をはじめ、抗がん剤などの化学療法、放射 線治療、分子標的治療薬、免疫療法など、さまざまな方法を 組み合わせて治療を行います。佐倉病院では、患者さん一人 ひとりにとって最適な治療法を見出すため、呼吸器内科、外 科、放射線科、病理診断科の医師が集まり、毎週定期的に合 同カンファレンス (症例検討会) を開催しています。このよ うにしっかりした連携体制を築くことで、より精度の高い診 断と治療が可能となっています。さらに緩和ケアが必要な患 者さんに対しては、がんの治療と併行して緩和ケアチームが 患者さんの身体的・精神的なサポートを行っています。

一人の患者さんが抱える症状は、決してひとつだけとは 限りません。複数の症状に対してスムーズな診療を行うこ とができるのは、さまざまな分野の専門医がそろっている 総合病院の大きな利点です。とくに当院の場合は、各診療科

> 同士の垣根が低く、普段から緊密な連 携がとれていることから、患者さんに とっても診断や治療を受けやすい環 境が整っていると自負しています。

市民公開講座においては、皆さんの 肺がん診療に対する注目度の高さが 感じられました。講演後、市民の方々 から多くのご質問が寄せられ、今後の 診療に参考となる内容でした。今回の 市民公開講座をきっかけに、我々自ら が、佐倉病院から地域社会に出向き、 肺がんは早期に発見し治療すること の重要性を、住民の皆様に啓発し、「肺 がん撲滅」に貢献していきたいと考え ています。

■市民公開講座スケジュール■ 〈2015年度の市民公開講座 予定〉

開催予定日	講演予定テーマ	担当	
10/3(土)	「がんと診断されてもあなたらしく生活するためのヒント」	看護部	
11/28 (土)		神経内科・メンタルヘルスクリニック・薬剤部・脳神経外科・ リハビリテーション部・臨床心理・ソーシャルワーカー・看護部	
12/12 (土)	「安全な医療への取り組み」	医療安全管理室・感染対策室	入場無料
1/23 (土)	「耳科手術・鼻科手術の最前線 -2」	耳鼻咽喉科	申込不要 200席
2/27(土)	「身近な救急医療」	看護部	200席

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした市民公開講座を企画しております。多くの方にご参加いただき、病気の予防や早期発見、 普段の生活に役立てていただければと考えております。

いずれの講座も14時から当院東棟7階・講堂で開催いたします。詳細は、テーマごとに院内掲示およびホームページなどでご案内い たします。お問い合わせや講演テーマのご要望がございましたら、総務課にご連絡下さい。



佐倉だより



Vol. **30** 2015,10,1

東邦大学医療センター佐倉病院 発行 広報委員会·東邦佐倉会事務局 〒285-8741 千葉県佐倉市下志津564番地1 TFI 043-462-8811(代)

FAX 043-462-8820(代) URL http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp





病院機能のさらなる向上を はかります。

> 副院長/管理・診療担当 岡住恒一

Topics News

副院長/管理·診療担当 岡住 慎一

アピールしたい診療と研究 #6 ■耳鼻咽喉科にズームアップ! 教授/鈴木 光也

昇任·新任紹介 泌尿器科 准教授 / 神谷 直人 泌尿器科 講師 / 矢野 仁 外科(乳腺外科) 助教/金澤 真作

市民公開講座

肺がん ~診断から治療・緩和ケアまで~ 市民公開講座を終えて

外科 准教授/長島 誠

東邦大学医療センター佐倉病院は、1991年の開院より各 診療科の増員、診療分野の充実・拡大を継続し、より高次 の機能を発揮する病院を目指してまいりました。多数の専門 診療、がん診療、救急診療に対応していくため、2008年に 増床、新救急医療体制の開始、2009年に化学療法室開設、 2010年に病院機能評価認定、2011年に千葉県がん診療協 力病院認定、2014年に放射線治療装置導入と高次機能の 獲得に努めてきました。本年度は、さらに「がん診療連携拠 点病院」と「災害拠点病院」の申請をおこないます。「がん」 に対する医療を、「診断と治療」という従来の観点から、「緩 和・支持療法」「介護」を包括した診療として捉え、病院ス タッフの研修を生涯教育として進めており、院内におけるオ ンコロジーカンファレンスの月例開催と、院外に公開した「緩 和ケア研修会」の開催を行っています。災害医療について も、地域における中核病院としての重要性を認識し、DMAT を創設しました。千葉県による両拠点病院の指定は当院が さらに高度な医療技術を取得し、充実した診療を提供して いくために重要と考えます。同時に、行政、地域医療との連 携にも重点をおき、2008年に開始した、市、消防、警察との 「救命と救急の連鎖研究会」や、2011年に開始した地域医 療機関との「医療連携学術フォーラム」を通して、佐倉市全

体の中で、有機的に活躍できる病院を目指していきます。

今回、7月に当院は日本医療機能評価機構による最新基 準による機能評価を受審しました。

今回、7月に当院は日本医療機能評価機構の最新基準に よる機能評価を受審しました。これは病院活動の向上を目 的に「病院の活動評価」を第3者機関が中立な立場で行っ ているものです。評価目標となるのは「患者中心の医療の 推進」、「良質な医療の実践」、「理念達成に向けた組織運 営」です。審査団が当院に訪問し、「患者さんの安全確保等 に向けた病院組織の活動」、「病院組織方針の診療・ケアに おける確実で安全な実践」、「病院各部門における機能」、 「病院組織の運営・管理状況」を審査・評価します。佐倉病 院では10年前に初回認定され、今回が2回目の更新です が、最新基準での審査でも認定される見通しです。

東邦大学の理念は「自然・生命・人間」の重視であり、当院 の理念は「質の高い医療・地域貢献・人間愛・チャレンジ・ 医療人育成」です。理念の追求と地域貢献は、職員一同の 願いであります。

これからも、東邦大学医療センター佐倉病院は、地域中 核病院、教育研修病院として、期待に応えられる診療の充 実を図ってまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

東邦大佐倉だより 第30号(2015年) 地域医療の発展を目指して(年4回発行)

アピールしたい 診療と研究



耳鼻咽喉科

にズームアップ!



教 授

鈴木光也

耳鼻咽喉科の特徴

2015年9月1日現在、教授1名(鈴木光也)、准教授2名(太田康、吉田友英)、助教1名(池宮城慶寛)、レジデント4名(田中稔丈、田村裕也、北澤吉悠、戸塚華子)、常勤嘱託医1名(野村俊之)の総勢9名で診療にあたっています。外来は、月曜日から金曜日までは、基本的に初診、再診をそれぞれ2名の医師が担当し、土曜日は初診のみで2名の医師が診察を行っています。初診の方は近医からの紹介状の持参をお勧めします。再診は担当医制になっていますので、診察前に予約をとって頂きます。月曜日から金曜日までの午後は、中耳炎外来とめまい・人工内耳外来(鈴木)、鼻副鼻腔外来(太田)、めまい外来(吉田)などの専門外来を行っています。受診の詳細はホームページをご参照ください。

診療

当科は特に手術治療に力を入れており、 数年前から手術件数も急激に増加して きました。主な内訳は中耳炎、副鼻腔炎、

扁桃炎、声帯ポリープに対する手術や頸部手術であり、 耳鼻咽喉全般にわたって対応しています。手術は鈴木、 太田・吉田准教授、池宮城助教が術者、指導医として担 当しています。

耳科手術と鼻・副鼻腔手術の専門施設

当科では、「大学病院・基幹病院として、重症・難治性 疾患および手術を要する症例に対する適切かつ高度な医 療の提供」を診療のモットーとし、特に難易度の高い耳 科手術と鼻・副鼻腔手術を専門にしています。耳科手術 件数は、千葉県下で最も多く、全国の大学病院の中でも 上位におります。慢性中耳炎以外に、外耳では外耳道閉 鎖症や狭窄症、中耳では中耳奇形、耳硬化症に対する聴 力改善手術、内耳では人工内耳植込み手術、外リンパ瘻 閉鎖手術といった難易度の高い手術も多数行ってきまし た。手術の特徴として、慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎に 対する鼓室形成術では、骨や軟骨を用いて外耳道を再建 し、耳漏などの術後のトラブルが起きにくい状態にします。 耳硬化症や耳小骨奇形の手術では基本的に外耳道内の切 開のみで手術するため、キズが目立ちません。どの手術に おいても術後の創傷治癒は早く聴力改善も良好です。 2010 年度から人工内耳植込み術を行っており、症例数は 年々増えています。これら耳科手術は鈴木が専門にしてい ます。鼻・副鼻腔手術では、慢性副鼻腔炎、副鼻腔良性 腫瘍に対する内視鏡手術が最も多く行われていますが、 難治例に対しては副鼻腔拡大手術(前頭洞手術:Draf type3 や鼻内視鏡下上顎洞内側壁切除: EMM) といった 難易度の高い手術も数多く行っています。ほかには、コン

トロールの困難なアレルギー性鼻炎や鼻涙管狭窄症に対する手術も毎月しています。これら鼻科手術は太田准教授が専門に行っています。対象症例がございましたら、ご紹介くださいますようどうぞよろしくお願いいたします。

研究

内耳 (難聴、めまい)、鼻副鼻腔を対象 に分子生物学的、生理学的手法を用い た基礎研究を行い、これまで基礎医学

及び耳鼻咽喉科領域の英文誌に多数報告してきました。 臨床研究では、聴覚・平衡機能検査によって末梢前庭機能の加齢性変化や聴覚・平衡機能の相互作用について分析を行っています。当科では若手医師のリサーチマインドの育成と継続に力を注いでいます。その成果は徐々に表れてきており、文部科学省科学研究費補助金は毎年頂いておりましたが、今年新たに若手研究で1件を獲得することができ、継続研究の2件と合わせて計3件になりました。これまでの若手研究成果の一部は助教2名とレジデント1名が国際学会で発表済もしくは発表予定です。現在行っている主な研究は以下の通りです。

- 1. 分子生物学的手法を用いた加齢性難聴の解明
- 2. 蝸牛・前庭機能に対する性ホルモンの影響の解明
- 3. 加齢性平衡障害に関する臨床および基礎研究
- 4. 慢性中耳炎に伴う前庭機能障害の分析と 新たな評価法の開発
- 5. 好酸球性副鼻腔炎の病態解明と新たな治療戦略
- 6. 急性内耳障害に対する CAVI の有効性と 予後因子の解明
- 7. 末梢前庭障害と体平衡機能の相互作用の分析

昇任・新任紹介



泌尿器科 ^{准教授} 神谷直人



泌尿器科 講師 矢 野 仁



外科(乳腺外科)助教 金澤真作

2015年6月より、東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科の准教授を拝命させていただきました神谷直人と申します。身に余る重責では御座いますが、鈴木啓悦教授のご指導のもと、大学病院の使命である臨床・教育・研究に対して与えられた職務を全う出来るよう、誠心誠意最善を尽くして参る所存であります。私は、1998年に杏林大学卒業後、2003年に千葉大学大学院を修了し、2010年1月より当院に赴任致しました。泌尿器腫瘍学(特に前立腺癌、膀胱癌、腎・副腎腫瘍に対する腹腔鏡手術)を専門領域として診療に従事させていただいております。泌尿器科は、腫瘍・結石・排尿・感染症・リプロダクションと扱う領域が多岐に渡ります。当科は、それぞれの領域におけるスペシャリストと内視鏡を始めとした充実した医療機器を擁しているため、大学病院として質の高い医療を提供することが可能です。微力では御座いますが、佐倉病院の発展と地域医療に貢献するために、より一層精励いたす所存で御座いますので、今後とも相変わらぬご指導ご鞭撻の程賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

このたび泌尿器科学講座講師を拝命致しました矢野仁と申します。幼 少時から19年間を四街道市千代田団地で過ごし、1994年に県立佐倉高 校を卒業、2001年に富山大学医学部を卒業し、2010年4月から東邦大学 医療センター佐倉病院で泌尿器科の一員として診療・研究に邁進してき ました。

私の専門は尿路結石、排尿機能障害、腹腔鏡および経尿道的手術を含めた泌尿器内視鏡手術です。尿路結石については、年間200例以上の尿路結石患者の診療に携わるほか、珊瑚状腎結石に対し経皮的および経尿管的に同時アプローチし結石を破砕摘除するTAP (TUL-assisted PNL)をいち早く取り入れ、県内でもトップレベルの結石治療を行っていると自負しております。また排尿機能障害に関しては、前立腺肥大症をはじめ、神経内科と協力し、パーキンソン病や脊髄小脳変性症、多系統萎縮症など神経疾患に伴う神経因性膀胱に対する診療・研究などを数多く行っております

「地域に根差した先端医療」をモットーに地元出身の医師として佐倉市を中心とした印旛市郡などの地域医療に対し救急を含めて、より一層尽力したいと思っております。

2015年6月1日より東邦大学医療センター佐倉病院 外科の一員として 乳腺外科を担当させて頂いております。乳がんの罹患数は5大がんのなかでも増加が著しく2003年以降は1位、2015年の罹患数は89,400人と予測されています。また、罹患年齢が低く30~60歳の生殖適齢期や現役世代の罹患率が高いことも問題となっています。一方で早期診断と適切な治療で治癒が可能ながんであり、2015年の死亡者数は13,800人と予測され全がん中の5位となっています。早期の診断と適切な治療がより重要な乳がんですが、乳房は年齢による変化が大きく、良性変化も多彩なことが早期の診断を困難にする一因となっています。当院では、低侵襲で不安の少ない乳房診療を進めており、治療が必要な場合でも総合病院であることの利点を生かした他の診療科との連携で、乳房再建や妊孕性の温存など個人のライフスタイルを尊重した診療に積極的に取り組んでおります。東邦大学医療センター佐倉病院乳腺外科が、地域医療関係の方々の負担を軽減し、ひいては地域住民の安心と健康維持に貢献できる診療科となるよう邁進していく所存です。